

日本の鍼灸RCT/CCT abstract table

2002.3.31現在 (as of 31 Mar 2002)

ver.1.0 2001.6.15

ver.2.1 2002.5.17

津谷喜一郎, 須山聡

study ser.no.	study ID no.	study, year	割付け方法	患者	介入	アウトカム	備考
1	6201	木下晴都 1962	「順序を無作為に割り付ける」	坐骨神経痛患者28名。	同一患者に対して、弱刺激、中刺激、強刺激の3種の刺激を順序を無作為に割り付け、一定期間ずつ治療を行った。	圧痛量、ラセーグ角度。成績の評価が困難な場合は、その他の症状を参考資料として判定する。	RCT。 木下(1969, 本)により補足。
2	6501	木下晴都 1965	「症例により無作為に割り付ける」	坐骨神経痛症候群の患者27名。	置鍼時間を10分、20分、30分の3種とし、同一患者に3種の方法を同じ回数ずつ行った。	圧痛、ラセーグ角度。	個人内randomizationのRCT。 木下(1969, 本)により補足。
3	6502	木下晴都 1965	「症例によりランダムにした」	坐骨神経痛症候群の患者31名。	施灸壮数は3壮、5壮、10壮の3種として、同一患者に3種の方法を一定期間ずつ行った。	圧痛、ラセーグ角度。差が判明しないときは自覚症状。	個人内randomizationのRCT。 木下(1969, 本)により補足。
4	6901	木下晴都 1969	5種の病型に分類し、来診順に2名1組とし公平に割り付けた	坐骨神経痛患者18組36名。	基本治療のみを施す基本治療群と、基本治療と同時に皮内針を固定する皮内針治療群とに分けた。	圧痛	おそらくRCT。 木下(1969, 本)により補足。
5	6902	木下晴都 1969	置針群と単刺群は各型がほぼ同数になるように割り付けた。	坐骨神経痛患者計61名。	置鍼群には置針を、単刺群には単刺をそれぞれ行った。	圧痛量ならびにラセーグ角度。数量値として測定不能の場合、測定可能な資料のみ	おそらくRCT。 木下(1969, 本)により補足。
6	6903	木下晴都 1969	「無作為に割り付け」	「深刺群・浅刺群ともに16例ずつ」計32名の坐骨神経痛症候群患者。	深刺群と浅刺群に分け、各群とも、浩即型の5型を含む。	圧痛量ならびにラセーグ角度。	RCT。 木下(1969, 本)により補足。1971年にfull paper。
7	7001	出端昭男 1970	「無作為に2群に分けた」	最大血圧150mmHg以上の患者14人。	洞刺群には洞刺、対照群には弱刺激をもってプラシーボに準ずるという意味で洞刺部に切皮のみの浅刺	最大血圧、最小血圧の平均降圧量	RCT

8	7301	木下晴都 1973	封筒法	五十肩の患者50人で開始。途中20人が脱落。	基本治療のみを施す基本治療群と、基本治療と特殊治療を併用する特殊治療群とに分けた。	問診系 診察系 検査系の3種に分け、問診系 診察系は各項目の点数、検査系は実際の値	RCT
9	7501	木下滋 1975	「無作為に2群に分け」	健康な成人男子28人。	(1)眼球圧迫 vs 安静仰臥のみ。(2)眼窩上孔刺針 vs 安静仰臥のみ。	心拍数減少	RCT
10	7601	丸野新 1976	「来院順に」2群に分けた。	膝関節症の患者52人。	試験群には刺針して、主として膝眼、曲泉、前曲泉に10分間置鍼してパルス通電。対照群には刺針して10分間置鍼。	RCT	CCT
11	7801	木下晴都 1978	「くしりによって試験群と対象群に無作為分割」	頸、肩および上肢に疼痛やしびれ感を主症状とするもので、頸椎その他に著明な病変のない患者50人。	試験群には傍神経刺を施す。対照群には施さない。	問診系 診察系各項目の点数。解析は17 vs 15。	RCT
12	7901	黒須幸男 1979	「無作為に二分」	腰痛患者40人。各実験20人ずつ。	10分間の置鍼 VS にんにく後のみ。	問診表	RCT
13	7902	黒須幸男 1979	「無作為に二分」	腰痛患者40人。各実験20人ずつ。	単刺 VS 10分間の置鍼。	問診表	RCT
14	8001	七堂利幸 1980	「封筒法で無作為に2群に分けた」	慢性肝疾患患者64人。	湯液治療 + 施灸 vs 湯液治療のみ	肝機能検査、自覚症状の点数。解析は21 vs 24。	RCT。 七堂(1982)により補足。
15	8101	向野義人 1981	「無作為に割り付けて」	年齢 18 ~ 45歳の肥満度120%以上の単純性肥満50人。	Activeな治療点として肺点を選び、Placeboの治療として三角窩の神門を選んだ。	2週間を通じての食餌摂取量、空腹感、満腹感の変化、治療前後の体重の変化及び食欲に關与すると考えられる血中代謝産物ならびにホルモンの変化	RCT

16	8102	木下晴都 1981	「封筒法によってランダムに2分して」クロスオーバーテスト	坐骨神経痛の短期観察30人。	傍神経刺群には6cm刺入し、非傍神経刺群には2cm刺入する。針を刺入後15分間、置鍼する方法は両群同様である。	圧痛量、ラセーグ現象、自覚症状。解析は17 vs 18。	RCT
17	8201	七堂利幸 1982	「無作為に分類」? 逐次検定法	不定愁訴症候群と思われる20才~閉経前の女性19人。	試験群、対照群ともベースとして湯液エキス治療がおこなわれ、試験群はさらに鍼治療を受けた。	自覚症状、日常生活支障度、患者の判定による全般的改善度の点数	RCT。 七堂(1982)により補足。
18	8301	向野義人 1983	「無作為に割りつけ」	年齢18歳~45歳の肥満度120%以上の単純性肥満50人。	肺領域皮電点治療群と肺領域非皮電点群とに分け、両耳の該当する部分に皮内針を固定した。	摂食量、空腹感、満腹感および水分摂取量の変化	RCT
19	8501	向野義人 1985	「無作為に分け」	年齢25歳から60歳の肥満度110%以上の女性患者	プラセボ群と皮内針留置群に分け、個々の症例に該当する操作で両耳の肺点に皮内針を固定した。	体重減少量	RCT
20	8901	藤抜龍治 1989	「来院順に番号をつけ、封筒法で無作為に振り分けた」	馬尾跛行患者23人。	試験群には障害高位の両側椎間関節部に中国鍼にて置鍼を行い、1ヘルツ、強さは最大許容範囲にて低周波鍼通電刺激を15分施行。対照群には、同じ部位に寸3.3番鍼で3cmほど刺入し、響きを求め直ぐに抜鍼した。	歩行不能になるまでの距離	RCT
21	9001	谷村裕充 1990	明示していない。	膝関節症の疼痛を訴える女性患者14人。	鍼は10分間の置鍼とし、レーザーは連続波を各治療点から関節の中心部に向けて3分間照射した。	階段昇降時痛の点数、膝関節の可動域、疼痛閾値	CCT。 七堂(1993)で「順に刺激」?
22	9301	北岡祐子 1993	二重盲検三群比較ランダムオーダー	健康な学生10人。	S極磁気針、N極磁気針、無磁気針の3群の刺激。	経皮的二酸化炭素分圧(tcPCO2)、血中乳酸濃度	RCT
23	9601	鍋田智之 1996	「封筒法を用いて無作為に2群に振り分け」	肩こりを有する学生32人。	置鍼群には左右の天柱穴に鍼刺激を行い、プラセボ対照群には切皮刺激を行った。	VAS法による自覚的こり感	RCT

24	9701	鍋田智之 1997	封筒法により無作為に割り付け」	肩こりを有する学生ボランティア32人。	鍼刺激群は切皮後、2cm刺入し、5回の雀啄の後、10分間置鍼された。対照群は切皮時に刺入・雀啄をしている間仕種をした後に被験者にわからないように速やかに抜鍼して10分間放置した。	VAS法を用いたこり感の変化	RCT
25	9702	津谷喜一郎 1997	方法に「封筒法」、タイトルに無作為化比較試験」。	健康成人10人。	割り付けられた左あるいは右の手三里穴にカマヤミ(弱)一壮を施灸した。	被験者、アイマスクをした判定者による左右の手掌の温かさの判定	RCT
26	9703	森英俊 1997	封筒法により無作為に割り付けた」	肩こりを訴えるボランティア男女20人。	浅刺群、深刺群ともこっている部分に鍼治療を行った。	VAS法を用いたこり感	RCT
27	9801	LuoHechun 1998	placebo-controlled, double blind study	うつ病患者29人。	3群比較。電気鍼治療+プラセボ投与群 vs アミトリプチリン (amitriptyline)投与群 vs 電気鍼治療 + アミトリプチリン投与群。	Hamilton Rating Scale for Depression(HRSD), Clinical Global Impression Chart(CGI), Rating Scale for Side-effect(ASBERG), GSC	RCT
28	9802	LuoHechun 1998	randomly divided	うつ病患者241人。	電気鍼治療+プラセボ投与群 vs アミトリプチリン投与群。	Hamilton Rating Scale for Depression(HRSD), Clinical Global Impression Chart(CGI), Rating Scale for Side-effect(ASBERG), GSC	RCT
29	9803	皆川宗徳 1998	「封筒法による無作為に割り付け」	排尿障害が認められた初診患者90名。	対照群には主訴に対する鍼灸治療のみを行い、中極穴処置群には主訴に対する治療と排尿障害に対する中極穴の鍼治療も併せて行われた。	排尿障害アンケート各項目	RCT

30	9901	池内隆治 1999	「封筒法によって割付を行った」	腰痛患者56人。	低周波鍼通電刺激を受ける(A群) vs 経皮的電気刺激(T群)。	疼痛寛解スケール法と副次的評価スケールとしてJOAスコア	RCT
31	9902	河瀬美之 1999	「封筒法による無作為割り付け」	高血圧状態の患者24人。	主訴のみの治療群(無処置群) vs 主訴 + 足三里穴治療群(処置群)。	血圧	RCT
32	0001	鍋田智之 2000	「無作為化比較試験にて、「封筒法で」	学生ボランティア34名。	刺入群17例とsham鍼群17例に割り付けた。	治療前後の圧痛閾値、肩凝りの変化(VAS法)	RCT
33	0002	河瀬美之 2000	「封筒法によるランダム割り付け」	高血圧の患者24人。	太極療法 + 標治法 + 足三里穴追加(治療A群) vs 太極療法 + 標治法のみ(治療B群)。	血圧	RCT
34	0003	北大路博司 2000	「RCTによる、「インターネットを用い2群に振り分けた」	愁訴に排尿障害を有する8名。	主訴に対する鍼灸治療を行う群(対照群3名) vs 主訴に対する治療と中極穴に鍼治療を併せて行う群(中極穴併用群5名)。	夜間の排尿回数	RCT
35	0004	井上基浩 2000	「インターネットによる中央管理システムを用いてランダムに」	腰痛を有する患者20名。	20秒の雀啄術を行う刺入群 vs 鍼管のみを叩打した後、20秒間鍼を刺入した仕草をする偽鍼群。	VAS	RCT
36	0005	篠原昭二 2000	「封筒法により」	運動器系愁訴を有する患者88名。	研究1 本経治療群(愁訴と関連する部位を通る経筋上の末梢の栄穴部に皮内鍼を刺入し絆創膏で固定) vs sham群(同部にピンセットでごく軽く皮膚に摩擦刺激を加えて絆創膏で固定) vs 他経治療群(本経治療における経筋と隣接した正常な経筋上の栄穴部に皮内鍼を刺入し絆創膏で固定)	VAS	RCT。研究2、3ではRCTであることが明示されていない。
37	0006	Kasai S 2000	「ランダムに」	五十肩、背部痛、肘痛、膝痛の患者210名。	真の磁石 (active magnets)は痛みを感じる部位に、偽の磁石 (dummy magnets)はプラセボとしてランダムに置かれた。	皮膚温	RCT

38	0101	片山憲史 2001	「封筒法にてランダムに」	ロードレースに出場した82名。	競技前にA群(円皮鍼)は鍼施術、P群(偽鍼)は絆創膏のみを貼付した。	疲労感、筋痛、競技中の走りやすさ、鍼の有無等(VAS法)。	RCT
39	0102	田邊勝行 2001	「ランダム化比較試験(以下RCT)を用いて」、「封筒法にて」	急性頸部痛を主訴として来院した18症例。	両側の風池、肩井穴と頸部最大圧痛部一点の計5穴に鍼を刺入し得気を得た後、10分間置鍼する刺鍼群 vs 5穴に鍼管だけを叩打した後、腹臥位姿勢を10分間行わせる偽鍼群。	頸部運動痛(VAS法)。	RCT
40	0103	小川貴司 2001	「RCTと」、「封筒法により」	内側型変形性膝関節症61例。	陰陵泉、内膝眼、血海、内側関節裂隙最大圧痛点に雀啄し、10分間置鍼する刺鍼群 vs 同様の部位に鍼管のみで施術の動作を行い、10分間安静とした偽鍼群。	治療前、治療後の階段降時の痛み(VAS法)。	RCT
41	0104	古屋英治 2001	「ランダム割付した」	肩こり感を有する53名。	円皮鍼群とsham鍼群に割付し、圧痛反応の著明な部位にそれぞれ3日間貼付した。	肩こり感の変化(VAS)	RCT
42	0105	荒木誠一 2001	「ランダム化比較試験(RCT)による」、「封筒法によって割付を行った」	急性腰痛症33例。	刺鍼群では背臥位とし良股関節・膝関節を屈曲させ、鍼を刺入し得気を得た後、腰殿部をベッドにより浮上させる運動を10回行わせた。偽鍼群では鍼管だけを叩打した後、押し手を持続し刺鍼群と同様の運動を10回行わせた。	VAS、JOA score	RCT
43	0106	竹田英子 2001	「ランダム化比較臨床試験(RCT)を」、「封筒法で」	学生ボランティア20名。	下肢刺鍼群は下肢に真の鍼(RA)、腰部にsham鍼(SA)を行い、腰部刺鍼群は腰部に真の鍼(RA)、下肢にsham鍼(SA)を行った。	治療前後の指床間距離・圧痛閾値・腰部可動痛の有無	RCT
44	0107	井上基浩 2001	「インターネットによる中央管理システムを用いてランダムに」	腰痛を有する患者16名。	20秒の雀啄術を行う刺入群 vs 鍼管の叩打のみを行った後、20秒間鍼を刺入した仕草をする偽鍼群。	VAS	RCT
45	0108	坂井友実 2001	「封筒法によりランダムに」	腰痛患者71例。うち64例が解析対象。	腰部の脊柱起立筋、腰方形筋付近の反応点から左右各々2穴ずつ選んだ上で、低周波鍼通電を受ける(A群) vs 経皮的電気刺激(T群)。	疼痛スケールと副次的評価スケールとしてJOAスコア	RCT